

かざね
四万十の風音

しんせん
森&川だより

利岡小学校で親子森林・木工教室を開催

7月1日土曜日、四万十市立利岡としおか小学校で全校児童31名と父兄を対象に親子森林・木工教室を開催しました。

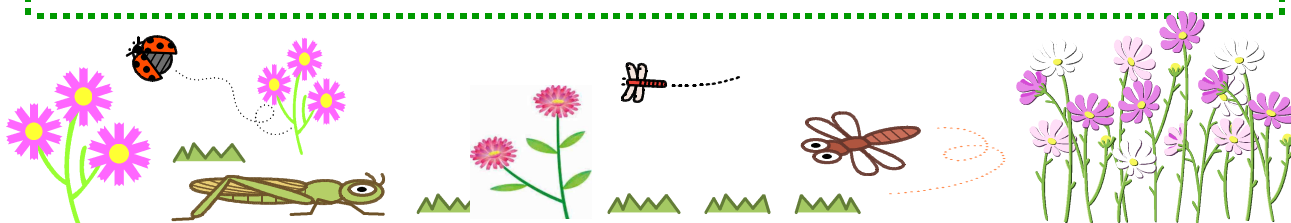
最初に紙芝居「森」のお話で木や森林の大切さを知ってもらいました。

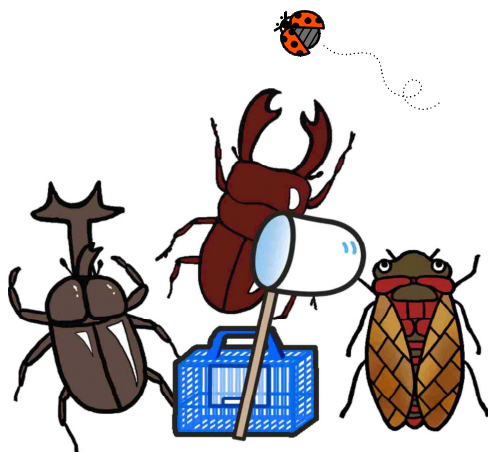
次に、木工クラフト製作で使用する材料や作り方を説明した後、昆虫の壁掛製作に取り組みました。コルクの木枠、カブトムシやクワガタムシの各パーツ、動眼（動く目玉）、小枝等の大きさ形を自由に選んで、ボンドでヒノキの板に工夫しながら貼り付けることで作品を完成させました。

参加した児童からは、後日、「森はほったらかしにしておく人間にも動物にも悪い影響しかないから、大切な森をちゃんとお世話してあげなきゃいけないことがわかりました。」「みんな同じ物をつくっているのに、それぞれ違うからすごいと思いました。工作が上手に出来て嬉しかったです。」等の感想文をいただきました。

授業参観日の機会に、児童と父兄と一緒に楽しく木を使って工作ができたことで、森林の大切さや木材利用についての理解を深めてもらえたと思います。

昆虫の壁掛け製作中の様子





片島中学生に木工教室

四万十森林管理署と当センターとの合同で、7月5日に宿毛市楠山の旧楠山小学校体育館において、片島中学校の一年生46名を対象にした木工教室を実施しました。生徒達は、サクラやミズメなどの木の小枝を使ったクワガタムシやカブトムシなどの置物やカニなどのストラップ等を製作して、木に親しんだ一日となりました。



松野西小学校で年間を通じた森林環境教育

愛媛県松野町立松野西小学校の四年生（本年度児童16名）は、平成19年度から「総合的な学習の時間」を利用して毎年度4～6回継続して森林環境教育を実施しており、今年度も支援要請を受けて5～6回実施する予定です。

7月6日に第1回目として木工クラフト学習を実施しました。

最初に、材料となる「木材の特徴」について説明し、木材には優れた性質（長所）や欠点（短所）もあり、木材を上手に使う工夫をして色々な物や場所に木材を使っていることを説明しました。

次に、作り方を説明したのち、最後は、昆虫の壁掛け製作です。児童達がクワガタムシ、カブトムシ、チョウチョ、テントウムシ等の各パーツに色をぬり、ボンドでヒノキの板に貼り付けて作品を完成させました。

また、7月11日の第2回目は、校庭の樹木学習を実施しました。

最初に、「森林の働き」について説明し、次に、下敷き「いろいろな木と葉っぱ」で、この後の校庭の樹木学習で観察するポイントについて簡単に説明しました。

最後は、校庭に出て、樹木の幹や枝葉に触れさせ、木の肌の感触や葉の匂いを嗅がせるなどの体感を通して33種の樹木についての名前や特徴が理解出来るよう説明しました。

最後に、児童の代表から、「これからの森林学習がとても楽しみです。」と感想をいただきました。

2月期からは、「空飛ぶ種子」や「水の土壌浸透実験」、そして、「八面山登山」等の森林環境教育も引き続き実施する予定です。これらの年間活動を通して、森林の大切さ、木材利用についての理解を深めてもらいたいと思います。



校庭の樹木学習の様子



昆虫の壁掛け製作の様子



西土佐小学校で『木材の特徴』についての講義と実験

四万十市立西土佐小学校より、「今年の四万十川ウルトラマラソンの際に児童が、板に絵を描いて選手にプレゼントをしたいので戴くことが出来ないか。」との相談と、「『木材の特徴』についての講義をしてもらいたい。」との要請がありました。

当所では、スギ板の在庫があったので、児童に木材の良さを知ってもらう絶好の機会と考え、10センチ角の板百枚を準備しました。

そして、7月12日に、六年生児童11名を対象にした、「木材の特徴」についての講義を実施しました。

最初に、木材は古くから私たち日本人の生活になくてはならない存在で、木材には優れた性質（長所）や欠点（短所）があり、木材を上手に使う工夫をして色々な物や場所に木材を使っていることについて説明しました。

その後、日本で一番軽い木（桐）と日本で一番重たい木（イスノキ）、世界で一番軽い木（バルサ）と世界で一番重たい木（リグナムバイタ）について説明し、世界で一番軽い木と重たい木の二つの重さを水槽や上皿天秤ばかりを使って比較する実験を児童に行わせました。天秤ばかりの実験では、1センチ角のリグナムバイタ1個を右側の皿にのせて、1センチ角のバルサを左側の皿に置くと何個で重さが釣り合うかと質問したところ、答えはそれぞれ違う個数でした。バルサを皿に1個1個と置いていき皿が動き、めもりが自分の予想と外れると歓声が上がっていました。

最後に、児童の代表より、「実験が楽しかった。木材のことを知ることが出来ました。この後、戴いたコースターを使って絵を描きます。」と感想等がありました。また、学校からは、「日頃からのご支援・ご協力に感謝致します。」

とお礼の挨拶がありました。

当所としても地元小学校の要請に応えることができ、大変有意義であったと考えています。

これからも、児童には、木材に親しみ、利用してもらいたいと思います。



木の重さの比較実験の様子



「木材の特徴」について説明の様子

ニホンジカの捕獲状況



当センターでは、高知県四万十市の黒尊山国有林周辺、愛媛県松野町の目黒山、宇和島市の滑床山国有林周辺において、大型・中型・小型の囲いワナ、合計19基を設置して、ニホンジカの捕獲に取り組んでいます。

平成29年度シカ捕獲実績（平成29年9月末現在）

捕獲場所	合計
黒尊山国有林周辺(高知県)	19
滑床山国有林周辺(愛媛県)	5
合計	24

囲いワナ付近に設置した自動撮影カメラで捉えたシカの様子



滑床山シカ防護ネット柵のメンテナンス

これまでに、自然再生地に設置したシカ防護ネット柵の総延長が伸びるに連れ、台風等によるネットへの倒木等や二ホンジカがネット内に進入したり、ネットに掛かって壊す場合が増加したことから、定期的な点検・補修（メンテナンス）が欠かせません。このため定期的な管理に努めています。

シカ防護ネット柵のメンテナンス状況



二校で年間を通じた森林環境教育「空飛ぶ種子」を実施

9月11日に、松野町立松野西小学校四年生15名、また、9月29日には、宿毛市立小筑紫小学校五年生13名を対象に、両校とも今年度第3回目の森林環境教育として「空飛ぶ種子」を実施しました。

今回は、草や木の種子の特徴や樹木が様々な方法で種子を散布する方法についての学習です。

風を利用し運ばれる種子もあれば、甘い果実で覆われた種子は、動物に食べられて、フンと一緒に散布されます。また、水に浮いて流れて、散布する種子もあります。さやがはじけたり、ドングリのように転がって散布する植物など、植物がさまざまな方法で種子を散布することを説明しました。



その後、いろいろな種子の実物を見せて説明し、そのなかで、「カエデ」「テイカカズラ」「アルソミトラ」（東南アジア産のウリ科の植物）の風や翼を使って飛ぶ種子が、実際にどのように種子が飛ぶかを実物を使って観察させました。

テイカカズラの種子を手作りの風洞実験装置の筒の中に入れてから、電源を入れるとふわふわ回転しながら舞い上がる様子に児童から歓声があがりました。また、大きな翼を持つ種子「アルソミトラ」の種子がグライダーのように滑空する様子に「オー」と驚いていました。

次に、「ニワウルシ」「ラワン」「マツ」「アルソミトラ」の種子の模型をスチレンシートや色紙等を使って作りました。

最後に、製作した模型を教室や中庭などで実際に飛ばして、くるくると回りながら衝撃を和らげて落ちてくる様子やふわっと滑空する様子を体験させました。

児童から戴いた感想文の中で、「種子によって運ばれ方が異なっていたり、種子毎に飛び方が違って面白かったです。風に乗ったり、はじけたり、くっついたり、と、種子が子孫を残すために、種子も工夫しているなと思いました。」と書かれており、種子の観察や模型を製作し飛ばす体験を通して、種子の様々な工夫や種子の分散を知ることに理解につながったと考えます。

今回の学習等を通じて、児童の草や木、自然に対する興味・感心が高まることを期待します。

二校で空飛ぶ種子学習の様子



松野西小学校



小筑紫小学校



手作りの風洞実験装置



林野庁 四国森林管理局

四万十川森林ふれあい推進センター

高知県四万十市西土佐西ヶ方586番地2

電話0880-31-6030 FAX 0880-31-6031